

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 16名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890100427
事業所名	グループホーム ゆうかの里
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	渡部 庸
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 28 日

<p>【事業所理念】</p> <p>人を慈しむ「仁」の気持ちを持って以下に努める。</p> <p>一、仁の気持ちで利用者を大事にする。</p> <p>二、仁の気持ちで職員を大事にする。</p> <p>三、仁の気持ちで地域社会を大事にする。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1. 利用者が楽しみにしている食事づくりについて、誕生日や季節行事ごとに皆で話し合っ、手作りのメニューを作って提供するようにした。その結果、利用者から「楽しみだとか久しぶりに美味しかった」など評価された。</p> <p>2. 入浴の楽しめる個々の支援について、利用者ごとの好みの温度や入浴方法、入浴日時の変更をしながら入浴を支援した。その結果、「気持ちよかった」などの笑顔が見られた。</p> <p>3. 外部評価の公開について、コロナ禍において運営推進会議の書面開催が多い中、評価の結果や目標達成計画を資料で関係機関や近所、家族に書類で送り、助言を得ながら、より良い介護サービス提供につなげていきたい。今後も継続して報告して意見を集め、反映したい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は住宅街の一角にあり、朝夕には人の往来も多いものの、比較的に閑静な環境に立地している。以前医院として活用されていた建物を改良し、事業所として活用しているため、1階と2階の居室数に違いがあるほか、1階には車いす利用者が多く、2階には自力で歩行のできる利用者が多い傾向がある。また、コロナ禍において、事業所では外出や面会制限などが設けられているものの、日頃から海や近隣の公園まで散歩に出かけたり、LINEのオンライン機能を活用して、家族との面会できる機会を確保したりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、リビングに集まり、日々の生活を送る中で、ゲームやレクリエーションなどの活動を取り入れ、職員と一緒に過ごす雰囲気づくりを窺うことができた。加えて、法人・事業所として、年間の研修計画を立てて、職員のスキルアップに努めるとともに、新人職員には、管理者やベテランの職員が一つ一つ丁寧に教えている。管理者は元気がない職員には声をかけて、随時相談に応じることができている。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	・入所時に家族から要望を聞き、把握に努めている。 ・日々の支援の中で、本人から要望を聞いている。	○	/	○	入居時に、職員は家族から、思いや希望などの聞き取りをしている。また、入居後も、日常生活の中で、職員は利用者から思いや意向などを聞くこともある。さらに、聞き取った内容は、ホーム日誌等に記載し、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の日々の様子を職員間で話し合い、ニーズを共有し、本人の意向の把握に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時の家族や面会時の友人から話を聞き、本人の趣味などについて教えてもらうこともある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ホーム日誌や個別の介護記録に、本人の思いを記録し、職員同士で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員個人の判断が偏らないように話し合いながら、職員間で情報共有している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	在宅時の居宅支援事業所との連携や病院の地域連携担当者との連携、入所時に本人の使っていた思い出の品の持参等を行っている。	/	/	○	入居時に、職員はフェイスシートやアセスメントシートを活用して、家族から生活歴等を聞き取りをしている。また、入居後も、職員は利用者から情報を聞くほか、利用者の様子を観察しながら、ADL能力の状況や1日の生活リズムを把握して記録に残している。さらに、入居前に利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員から情報を聞いたり、病院からサマリー等の提供を受けたりすることもある。加えて、SNSのメール機能を活用して、タイムリーに職員間で情報共有をすることもある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所時に在宅や病院での生活歴や既往歴を把握し、入所後に反映できるよう、現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の表情や様子を常に観察しながら支援し、入所前の情報について介護・医療・家族との連携を図っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	入所前の情報及び職員間でのカンファレンスを通じて、不安の要因の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	その日の様子は、ホーム日誌と個別の介護記録に記録し、情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人を交えて、日々の観察で本人が何を求めているかという視点で職員間のカンファレンスを行っている。	/	/	○	事業所では、3か月に1回、アセスメント情報の更新をしている。また、利用者一人ひとりの日々の介護記録の状況を確認しながら、職員間で情報共有するとともに、アセスメントにも活用している。さらに、アセスメント情報をもとに、利用者や家族の意見を交えて、管理者や計画作成担当者等を中心に、カンファレンスの中で検討をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	随時必要に応じてケアマネ、管理者、介護主任、介護職員でカンファレンスを行い、必要な支援について話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	家族からの聞き取りや、職員会議を通じて課題が明確なものになっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームゆうかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向が反映された介護計画になっている。				事前に、日々のかかわりの中で、利用者の思いや意見を聞くほか、家族から電話連絡時等を活用して、意見や意向などの情報を聞いている。アセスメント情報をもとに、利用者や家族の意見のほか、医師等の関係者の意見を踏まえて、3か月に1回実施するカンファレンスの中で話し合い、その人らしい介護計画を立案している。また、利用者や家族の意見が反映された計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、医療関係機関から情報を得て、介護計画に反映している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	身体状況に合わせて、その人らしい生活ができるよう支援している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族、医療機関、近所の地域住民の方に協力を得ている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランは回覧して、職員全員が内容を把握している。				事業所では、介護計画の変更時等に、カンファレンスの中で話し合うほか、計画の回覧を行い、職員間で内容を共有している。また、介護経過記録やモニタリング用紙等を活用して、介護計画の内容に基づいたサービス内容を記載するとともに、日々のかかわりの中で、新たに得られた情報を追加して、利用者の現状確認などのモニタリングに活かしている。さらに、ホーム日誌や利用者毎の介護記録には、体調や食事量、排泄状況、睡眠状況などの生活上の情報をまとめて記載することができている。加えて、利用者が発した言葉や様子なども記録に残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個別の介護記録に基づいて、日々の支援を行っている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ホーム日誌や個別の介護記録に、日々の様子を記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員の気づいたことを記録し、職員間で共有し介護に活かしている。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間ごとに長期・短期計画を立て、具体的な支援内容の見直しを行っている。				介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。また、毎月実施する職員会議を活用して、利用者一人ひとりのモニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況の変化が生じた場合には、適宜計画を変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日々のモニタリングをしながら、月1回職員会議を行い、現状確認している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合は、その都度カンファレンスを行い、家族と相談し、計画を見直ししている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回の職員会議と緊急時には、その都度ケア会議を行い、検討している。				月1回職員会議を開催するほか、3か月に1回カンファレンスを実施し、利用者のケアなどを職員間で検討している。また、緊急案件のある場合には、その都度ケア会議等を開催している。さらに、日々の業務の中で、職員同士で話し合い、その情報をもとに、職員会議等で意見を出し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	課題解決のための話し合いの場を自然に多様な所でミーティングができるよう行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	月1回職員会議を行っているが、コロナ禍において感染拡大の予防を図りながら、未参加者には書面に参加を行っている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議内容は回覧し、全員に周知している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	ホーム日誌と個別の介護記録に、必要な情報を記入している。				日々の朝夕の申し送り時には、ホーム日誌や連絡ノート、介護記録等を活用して、申し送りをしている。また、必要な情報は、SNSのメール機能を活用して一斉送信を行い、情報共有をすることもある。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々の支援の情報共有は申し送りで行い、重要な情報は回覧している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話・非会話を通じて本人の意向を把握し、希望に沿うような支援を行っている。	/	/	/	日々の着替えの際に、着る服を選んでもらったり、「海に行きたい、公園に行きたい」などの意見が出され、散歩コースを決めてもらったりするなど、職員は声をかけ、利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、習字や俳句づくりなど、利用者一人ひとりのしたいことを自由に選んでもらいながら、楽しみのある生活を送ることができている。さらに、レクリエーション時には、利用者の特性に応じた支援やかかわりを行い、達成感などから、笑顔が見られるような支援にも取り組んでいる。加えて、意思を言い表すことが難しい利用者には、職員が表情やしぐさを観察しながら、二者択一などに絞り、可能な範囲で選択してもらえるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できるような内容の会話や声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の表情や様子をよく観察し、自己決定できるように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	職員間で情報共有しながら、それぞれの生活のリズムに合わせた支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その人の性格に応じた声掛けや楽しんでいけるレクリエーションを行っている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	丁寧に声掛けを行い、表情や行動のちょっとした変化を注意深く観察し、支援に繋げている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	新人職員研修や身体拘束禁止研修、職員会議やケア会議では、利用者の尊厳を意識して勉強会を行っている。	○	○	○	管理者等は、職員会議やカンファレンス等の機会を活用して、職員に利用者の尊厳を尊重した支援やプライバシーに配慮したかかわりが持てるように、指導や注意喚起をしている。また、日々の支援の中で、職員は利用者への人権や尊厳を意識した支援に努めている。さらに、職員は居室等をプライバシーのある空間と認識し、居室へ入室する際には、ノックや声かけを行うなどの配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	一人一人に敬意を払い、排泄介助ではプライバシーに配慮した支援を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレの声掛けは小さい声で行う等、プライバシーに配慮して介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入るときは、ノックや声掛けをしてから入るよう気をつけている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報等は、外部に漏らさないよう又、扱いには注意するよう、心かけている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	作業を手伝っていただいたときは、「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	1階ユニットでは、利用者に洗濯物たたみや来客時の接待等を手伝ってもらい、職員は「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、2階ユニットでは、利用者に食器洗いや配下膳、拭き掃除、洗濯物たたみなどを手伝ってもらい、感謝の言葉を伝えている。さらに、利用者同士がトラブルにならないように、食事の時間をずらしたり、配席などの配慮をしたりするなどの対応をしている。時には、利用者同士が言い合いなどのトラブルになることがあり、職員は早期に間に入るとともに、別の場所に移動して、利用者の話しを聞いている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	お互いに助け合いながら生活することで、生きがいを見出すことができることを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士が仲良く過ごせるよう、席の配置を工夫している。トラブルにならないよう、利用者の話をよく聞いている。活動的利用者には、活動の場を提供し、自信をつけるながら助け合いを引き出すように支援している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの時は、お互いの話をよく聞き、お互いが納得いくような声掛けをし、時間や場所を調整して不穏の軽減を支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時に、人間関係について家族に聞き取りをしたり、本人に聞いたりして関係者の把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時に馴染みの場所について家族に聞き取りしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会や外出は、コロナ感染拡大の状況を見て検討している。面会以外の方法として、電話を通じて連絡が取れるよう支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ感染拡大の状況を見ながら、面会方法を検討している。面会以外の方法として、電話を通じて連絡が取れるよう支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は散歩や日光浴を行っている。玄関前にプランター栽培に参加してもらうなど支援をしている。	×	△	○	コロナ禍において、事業所では外出する機会は減っているものの、天気の良い日には、利用者に行きたいコースを確認して、海や近隣の公園などに散歩に出かけることができる。また、玄関先に置いてあるプランターの水替えしたり、日向ぼっこや外気浴をしたりするなど、気分転換が図れるよう支援している。さらに、車いすの利用者も、積極的に外出することができる。加えて、利用者と一緒にケーキなどの買い物に出かけることもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染拡大防止の為、地域の人、ボランティア等の協力を得た外出支援は控えている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日は散歩や外気浴に触れてもらえるよう、支援を行っている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ感染拡大状況を見ながら、外出支援を検討している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	外部研修を通じて、認知症について正しく理解するよう勉強会をしたり、研修参加を支援している。				1階ユニットでは、日々のラジオ体操を行うほか、車いすの利用者は、マッサージや足上げ運動をするなど、足などの筋力維持に努めている。また、2階ユニットでは、日々のラジオ体操や散歩、階段昇降などを行い、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、日常生活の中で、トランプや将棋、ジグソーパズルなど、利用者自身で考える知的活動も取り入れている。加えて、事業所では、できることは自分でしてもらうなど、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	外部研修や勉強会を通じて、認知症の特徴を理解し、支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	自分の力でできるような環境づくりと、見守り支援をしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の支援や会話の中で、その人の楽しみやできることを把握している。				根野菜の水やりや花の水やり、食器洗い、配下膳など、職員は利用者には役割を担ってもらえるよう支援している。また、事業所では、俳句づくりをしている利用者もおり、作った作品を新聞に投稿するなど、張り合いや楽しみとなるような支援にも努めている。さらに、トランプやパズル、将棋、風船パレー、習字など、多くのレクリエーションを取り入れ、職員は利用者には楽しみのある生活を送れるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者のレベルに応じたレクリエーション支援や共同生活の役割づくりをしている。	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域のイベントや展示会に参加できるような支援をしている。				

愛媛県グループホームゆうかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人の個性や体型に合った身だしなみをしている。				自分で服を選び、着替えることのできている利用者もいる。また、洗面台の鏡を活用して、衣服や髪形などを整えることができるように、職員は促す声をかけるとともに、できていない部分のサポートをしている。さらに、2か月に1回、訪問理容サービスの来訪があり、髪型を整えることもできている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	髪型は、訪問散髪で整えている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	その人に合った身だしなみの支援をしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節やその場面に応じた服を着ていただくよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人の気づかない整容の乱れは、職員がさりげなく整えている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人や家族の希望により、訪問散髪を利用したり、近所の理容店に行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしい髪形や服装になるよう支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解し、身体状況に応じた食事形態や食事方法を検討し、適切な支援を行っている。				業者の食材の配食サービスを活用して、栄養価を考慮したメニューを現場で職員がアレンジするほか、利用者にごしらせや配下膳などのできることを手伝ってもらいながら、調理をしている。誕生日には、食事のメニューや誕生日ケーキなど、可能な範囲で、利用者の希望に対応できるよう努めている。ケーキ作りが得意な利用者もおり、他の利用者の誕生日に腕をふるうこともある。利用者の口腔・嚥下機能の状態に応じて、刻みやトミの使用などの食の形態にも対応をしている。食器類は、以前から使い慣れた物を自宅から持参してもらい、自身の食事に関する認識を高めている。コロナ禍において、食事の際には、職員が利用者と一緒に食事をすることは控えているものの、事業所では音楽を流すなど、食事時間帯における雰囲気づくりを心がけている。さらに、食べこぼしなどが多い利用者には、エプロンを使用し、衣服等が汚れないような配慮もしている。加えて、利用者と一緒に干し柿づくりやリンゴジャムづくりなどを行い、美味しく食べることもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	できることを話し合い、調理は職員が中心に、その後の片付け等は利用者の協力を元に、役割を決め行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できることを話し合い、調理は職員が中心に、その後の片付け等は利用者の協力を元に、役割を決め行っている。役割を持つことで、利用者の意欲向上に繋がっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に聞き取りを行い、職員間で情報共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節行事の際は、食事やおやつに季節を感じられる食材を使用している。また、日々の献立においても、アレルギーや食材の好みに配慮しながら提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	身体状況に応じた食事形態や食事方法を検討し、必要な支援を行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に、使い慣れたものなどを持参されている方もいる。また、施設備品も、利用者に適した物を提供している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	新型コロナウイルス感染防止及び食事介助のため、利用者と共に食事を摂ることは難しいが、安全に食事ができるよう支援している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の方については、感染対策に留意し、食事が楽しいものとなるよう、食材をお伝えしたり、食事の感想を伺いながら食事介助を行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	配食サービスを利用しており、献立や栄養バランス、カロリーについては高齢者に適したものとになっている。水分についても、日誌等で確認している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	体調の変化に留意しながら、実施している。また、必要に応じ主治医等にも相談し、健康管理を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	配食サービスを利用しており、献立や栄養バランス、カロリーについては高齢者に適したものとになっている。季節行事にお出しする食事やおやつも、カロリーなどを考慮しながら提供している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	鮮度や賞味期限に留意し、食事提供を行っている。また、食材の管理についても、適切に行っている。				

愛媛県グループホームゆうかの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアに関する研修を受け、職員間で情報共有している。口腔ケアが健康維持に重要であることは、理解できている。				職員は、オンライン研修などを受講し、口腔ケアの重要性を理解しているほか、歯科医や歯科衛生士等から、助言や指導をもらい、日々の口腔ケアを支援している。食事前に、利用者は職員と一緒に口腔ケア体操を実施している。また、毎食後に、職員は利用者に声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。さらに、口腔ケア時には、職員は見守りや磨き残しなどの介助を行うとともに、一人ひとりの口腔内の状況を確認し、必要に応じて、訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に、口腔内の確認を行う。虫歯や技師の不具合等があれば、訪問歯科に依頼し、適切な治療に繋げている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の定期診療と職員指導をうけながら、設問のとおり、実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	口腔ケアの際、入れ歯洗浄剤などを活用して衛生的に使用できるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	本人が口腔ケアする場合には、自力で実施してもらっている。介助が必要な利用者については、職員が口腔ケアを行い、清潔保持ができるよう支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	日々の観察を通じて、異常を発見したら、すぐ訪問診療や家族と相談し、対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解している。紙パンツなどを使用している利用者についても、できる限りトイレで排泄できるよう、トイレ誘導している。				事業所では、利用者一人ひとりの1日の排泄リズムを把握し、「できる限りトイレで排泄すること」を目標に掲げて、職員はさりげない声かけやトイレ誘導を行い、利用者が失敗しないよう心がけた支援に努めている。中には、夜間帯を中心に、ポータブルトイレを活用している利用者もいる。また、利用者の状態に合わせて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を職員間で検討するとともに、家族に確認の上で、使用をしている。さらに、散歩やラジオ体操を行うほか、水分量を増やすなど、利用者が自然排便できるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。排便については、記録を通じて職員間で共有しており、自然排便を促しながら服薬支援する。また排便状況を見ながら、便秘解消を図っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録を確認しながら排泄パターンを把握し、適宜、声掛けやトイレ誘導を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	職員会議やカンファレンス等を通じ、本人の身体状況や生活状況を把握し、排泄に関して話し合っている。本人の状況を見ながら、必要な支援方法の見直しを行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員会議やカンファレンス等を通じ、個人の事情を考慮し、話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々人の排泄間隔を記録し、みんなで共有し、早めに対応を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族に確認しながら、必要なものを使っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	各利用者に合わせて、紙パンツやオムツなどの排泄介助に努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	体調や持病に留意しながら、水分量を増やしたり、運動をするなどして、腸の動きをよくするよう支援している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴日は決まっているが、入る順番は利用者に確認しながら決めている。また、冬にはゆず湯にすることで、季節感を感じながら楽しみを持って入浴できるよう支援している。	◎		◎	利用者は、週2回入浴をすることができる。また、事業所では、入浴できる日には決まっているものの、利用者の希望に応じて、湯の温度や入浴時間、入浴する時間帯を変更するなど、柔軟な対応に努めている。夕方や夜間の時間帯の入浴希望にも対応をしているほか、夏場には、朝の起床時にシャワーを浴びる利用者もいる。さらに、入浴を拒む利用者には、時間帯を変更したり、職員を交代して声かけをしたりするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。加えて、季節に合わせて、ゆず湯にするなど、利用者に季節の香りを感じてもらいながら、少しでも利用者が楽しめるような入浴支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	体温の向上で免疫力や気分転換のため、積極的に入浴支援を実施している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	入浴時の立位協力動作を活かし、入浴支援を実施している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否があった際は、時間を置いたり、別の職員が声掛けするなどして、スムーズに入浴できるよう支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックやご本人に体調確認をするなど、健康状態を確認している。入浴の際も、負担が内容、個別に入浴時間を調整しながら入浴している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	消灯時間は決まっているが、早めに休みたい利用者が多いため、その場合は早目の居室誘導を行っている。	/	/	/	事業所では、できる限り眠剤などを服薬しない支援に努めており、体操や散歩、レクリエーション、趣味の活動への参加などを促し、利用者が夜間に良眠できるよう努めている。また、利用者一人ひとりの生活リズムを大切にした支援にも取り組んでおり、休息や昼寝をしている利用者もいる。さらに、昼夜逆転などが続く利用者には、利用者の体調面を考えて、医師に相談するとともに、指示を受けて、服薬などの適切な対応に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転にならないよう、日光浴や日中のレクを実施している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中眠気がある利用者については、夜間良眠できるよう、日中活動に参加できるよう促している。また、必要に応じ、医師に相談しながら、医師の判断で服薬が必要な方については、その指示に従っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	生活リズムが崩れないよう留意しながら、休息や昼寝時間を確保している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	手紙や電話で家族などと連絡が取れるよう、支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	普段無口な利用者にも家族の声を聞き、表情の変化を観察するなど、実施している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話をかける支援を実施している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者本人に聞かせ、その時の表情などを家族に報告するなど、実施している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	毎月の近況報告等で知らせたり、家族に電話依頼をしたり、こちらからも電話をかけて連絡が取れるよう支援している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	新型コロナウイルス感染拡大に注意しながら、ほしいものを聞き、代理で買い物できるなど楽しさを提供している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	新型コロナウイルス感染拡大の観点から、現在は買い物に行く機会が減っているが、今後、終息した場合には、買い物できる機会を設ける。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物リストを聞き、代理で買うなど積極的買い物ではないが、買い物の楽しさの提供に努めている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と本人の意向を尊重し、金銭トラブルにならないよう対応しながら、金銭所持する機会を設けている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に家族と相談し、お金管理について十分話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理の必要がある利用者については、通帳と印鑑を分けて管理し、出し入れに当たってもきちんと記録に残している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	理容・美容室通い支援、新聞購読支援など利用者個々の事情に応じ、可能な限りの対応を行っている。	/	○	○	コロナ禍において、事業所では面会や外出などの制限が設けられているものの、利用者や家族の希望や要望に応じて、買い物の同行支援を行ったり、食事メニューの追加等に対応したり、家族と理髪店へ出かける準備を行うなど、可能な範囲で柔軟に対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	新型コロナウイルス感染拡大の観点から、現在は直接会うことが難しいが、画面やガラス張りや気軽に安否確認できるような環境整備を行っている。	○	○	○	事業所の玄関は、1階と2階部分は別々となっている。また、1階ユニットでは、玄関近くにある大きな窓から、通学をする生徒などの見守りや手を振ることができる。さらに、1階と2階ユニットともに、玄関は基本的に開放し、自由に出入りできるようにしている。加えて、玄関先に花を置き、親しみやすい雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	装飾品や備品なども、季節感を感じられるものに変えながら、居心地の良い環境を整えられるよう努めている。	○	○	○	リビングにはテーブルやソファが置かれ、利用者はテレビを見たり、好きなレクリエーションをしたり、食事づくりの手伝いをしたりするなど、好きなことや役割を担いながら、思い思いの場所で、思い思いの生活を送ることができている。また、事業所内には、季節の飾り付けや利用者と一緒に作成した作品のほか、廊下にはレクリエーション時などの写真や絵画が飾られている。さらに、オープンキッチンから、職員は利用者の様子を見渡せるようになっている。加えて、空気清浄機の配置や換気を行い、臭いなどの対策に努めるとともに、清掃や消毒が行われ、快適な環境づくりに努めている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	居心地の良い環境づくりのため、衛生管理や快適な空間が維持できるよう換気や消臭に努めている。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じられるよう、備品や装飾品などにも変化を持たせている。また、利用者が安心安全に暮らせるような環境づくりに努めている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	日々のレクリエーションや季節行事などを通じ、利用者間の交流ができるよう支援している。また、日々の生活の中で互いに助け合い、声掛け合いながら生活している。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンや扉の開け方にも配慮し、プライバシーに留意しながら支援している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべてのものを継続して使ったり、馴染のことや趣味なども継続することで、居心地よく生活できるよう支援している。	○	/	/	居室には、ベッドやエアコン、たんすなどが備え付けられている。また、家族写真やぬいぐるみ、人形、テレビなど、自身の慣れ親しんだ物や使い慣れた物を持ち込み、くつろげるような空間づくりができている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	話し合って役割を分け、下膳や洗濯たみ、血洗い、見張り役、大声役など生きがいを感じられるようできることを活かすようにしている。	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	薬や洗剤の誤飲や刃物の扱いなどに注意し、事故を未然に予防できるよう職員間で共有している。	/	/	/	調理の下ごしらえや配下膳、血洗いなど、利用者に応じた役割を担ってもらい、生きがいが感じられるような支援をしている。また、居室やトイレを分かりやすく表示を行い、利用者が間違わずに、自立した生活が送れるようにしている。さらに、編み物などの道具を用意し、利用者が手に取れるようにしている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	趣味の道具を居室や共用空間に置いたり、普段から使えるように声掛けするなどして、意欲を持って生活できるよう支援している。また、以前から使用していた馴染の物を日常使いすることにより、安心感を持って生活できるよう支援している。	/	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は開錠しており、夜間は防犯のため施錠している。日中、施錠することは利用者を囲い込むことで弊害が乗ることを、職員も理解している。	◎	○	○	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、日中には玄関等を開放している。また、外出希望がある利用者には、職員が付き添って、散歩などに出かけている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時や施設見学の際など、適宜説明している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施錠していないため、利用者が一人で外に出てしまうことを防げるよう、職員は見守りを行っている。また、外に出たい利用者については、職員と一緒に外出することで、気分転換を図っている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時、家族や関係機関から聞き取りを行い、把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の記録に残すことで、職員間で情報共有し、必要に応じて医療機関に繋げている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	設問のとおり、実施している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者や家族に意向確認し、希望する医療機関での診療が受けられるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所時に家族に協力について説明し、家族の協力を得ながら、訪問診療や入院時の支援体制を実施している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時の結果について家族に報告するとともに職員間で共有するよう、実施している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリーやフェイスシートなど情報を共有し利用者のための情報提供を実施している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中にも情報交換や退院支援を実施している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入退院の際、利用者に関する情報共有や今後の支援方法、通院方法について互いに確認し、今後の協力体制構築に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医や訪問看護師に相談することで、利用者ケアに関する疑問や不安、必要な治療等について情報提供や必要な治療を受けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力体制があるため、気軽に相談でき、職員も安心してケアに当たることができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の様子観察や記録を通じ、職員間で情報共有したり、相談したりして、利用者の体調の変化にすぐ対応できるよう努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	眠剤や下剤などの薬説明書を熟読するとともに薬剤師とも相談し、用法用量を遵守している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	声掛けて服薬することで、誤薬を防いでいる。また、飲み忘れがないよう、飲んだ後の確認作業も行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の記録を通じ、職員間で情報共有をしたり、職員間やカンファレンスなどで話し合う機会を設けたりすることで、服薬の必要性について検討している。また、必要に応じ、医師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	必要に応じて家族や医師、看護士と情報共有したり、服薬について相談したりしている。				

愛媛県グループホームゆうかの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化指針を作成し、入居時に同意をもらい、また終末期にも再度確認をもらい、医療連携して対応している。	/	/	/	事業所には、「医療連携体制に係る指針」があり、入居時に可能な対応を家族等に説明し、同意を得ている。また、近隣の病院や訪問看護ステーションと連携が図られ、看取り支援の体制づくりができています。事業所では、利用者や家族等の希望に応じて、看取り支援に対応するものの、他の施設や病院へ転院する利用者も多い。利用者家族等アンケート結果から、重度化や終末期への支援について、十分な理解が得られていないことが窺えるため、入居時の説明に加えて、状態の変化などに応じて、その都度説明を行うなど、理解が図られるような取組を期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合に対応については、協力医療機関や家族と話し合い、今後の方針について検討している。	x	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	管理者として、利用者の現状を検討し、今の職員でできることを把握し、医療連携を図りながら、終末期の支援を実施している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	家族とも相談し、職員でできることも説明し、理解を得ながら、終末期の支援を実施している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族とも常に連絡体制を取りながら、往診や訪問看護と連携し、対応・実施している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族から不安や悩みなどを聞いた際は、寄り添いながら可能な支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策の重要性を理解しており、研修においても感染症に関する学びを深めている。	/	/	/	事業所には、「医療連携体制に係る指針」があり、入居時に可能な対応を家族等に説明し、同意を得ている。また、近隣の病院や訪問看護ステーションと連携が図られ、看取り支援の体制づくりができています。事業所では、利用者や家族等の希望に応じて、看取り支援に対応するものの、他の施設や病院へ転院する利用者も多い。利用者家族等アンケート結果から、重度化や終末期への支援について、十分な理解が得られていないことが窺えるため、入居時の説明に加えて、状態の変化などに応じて、その都度説明を行うなど、理解が図られるような取組を期待したい。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	病院の感染症対策専門の看護師を招き、勉強会を実施しながら、現場での対応を勉強している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	職員会議や研修等を通じ、感染症等に関する情報を入手し、職員で共有を行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	関係機関からの情報を共有し、拡大防止に対応・実施している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、手指消毒、定期的な換気、衛生管理などを行い、感染症対策に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者の家族の気持ちを理解しながら、本人のうれしきや苦しさを分かち合えるよう、日頃関係作りを実施している。	/	/	/	コロナ禍において、家族が参加できる行事開催などは自粛している。事業所では、家族との関係性を維持するために、毎月の請求書の送付に合わせて、事業所便りや職員からの手紙を送付して、利用者の様子を伝えていく。また、LINEなどのSNSの機能を活用して、写真や映像を送付したり、家族とのオンライン上で面会したりできる機会づくりをしている。さらに、運営推進会議の記録等は、2か月に1回家族に送付し、事業所内の出来事も伝えている。コロナ禍の収束後には、家族が事業所内で行うイベントや行事などの活動に参加できる機会づくりができることを期待したい。加えて、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や異動など、事業所内の出来事が、コロナ禍で来訪できていないこともあり、十分に家族に周知できていないことが窺えるため、事業所便りを活用して掲載するなど、職員間で周知方法を検討することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	新型コロナウイルス感染対策のため、直接会っての面会は制限しているが、電話等を通じて連絡を取り合う機会を設けることで、気軽に連絡できる環境を作っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	新型コロナウイルス感染対策のため、現在は難しいが、終息した際には実施できるよう検討している。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の近況報告や施設だよりなどをお送りすることで、利用者の状況や施設の取り組みについて知っていただけるよう努めている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	定期的報告以外にも、家族から問い合わせがあった場合には、理解できるよう説明を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	毎月の近況報告や施設だよりや電話連絡を伝え、家族の理解促進に努めている。また、本人との電話等でのやり取りの機会を設けることで、つながりを継続している。夫婦同士の関係改善につながるよう外出機会を提供し、さりげなく応援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月の近況報告や施設だよりなどをお送りすることで、利用者の状況や施設の取り組みについて知っていただけるよう努めている。	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	家族や夫婦同士で通院や美容付き添いの機会を提供し、交流を支援している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時や毎月の近況報告などを通じ、認知症や加齢によるリスク等について説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	気軽に声をかけていただけるよう、日々連絡相談できる関係づくりを心かけて実施している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	書面や電話での説明を行い、理解を得るように、努めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去相談に応じ、本人や家族が望まれるところに転居できるよう、支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	改正や変更の事項がある時は、文書を送付し、電話での説明もし、同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時から地域とのつながりが持てるよう努めているが、新型コロナウイルス感染対策のため、現在は難しい。終息した際には、地域との交流機会などを設けられるよう検討している。	/	○	/	近隣住民が事業所へ古新聞を提供してくれたり、事業所前を通る人が、声をかけてくれたりすることもある。また、利用者が一人で歩いている場合や迷子になった場合には、近隣住民に連れてきてもらうなどの協力体制もできている。さらに、地域の区長や民生委員が事業所に協力的である。コロナ禍以前は、地域の住む高齢者を事業所に招待して、一緒におやつやお茶を楽しむなどの交流を図ることもできていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の民生委員や区長など地域関係者との連絡・挨拶して交流を図っている。地域の認知症対策や地域災害対策の会議にも参加し、互助ができる部分を探り、協力体制に努めている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	地域住民がさり気なく、新聞古紙を持参したり、徘徊時の利用者を一緒に探したりするなど、理解者が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	散歩時の挨拶を交わす、地域の清掃中の声掛け合いを通して地域住民同士の付き添いを継続している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時の挨拶を交わす、地域の清掃中の声掛け合いを通して地域住民同士の付き添いを継続している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	働きかけにより、地域の人々が紙芝居を見せる為来られたり、教会から讃美歌を歌ってくれたりしている。新型コロナウイルス感染対策のため、現在は難しいが、終息した際には継続して実施する。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	公民館での展示会参加や図書館での図書貸し出しなどの地域資源を活用し、楽しく過ごせるよう継続して支援する。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の散髪店主との関係づくりや文化施設の利用を継続し、支援の輪を広げていくよう、実施している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、文書会議の形で継続している。なお、事前に資料を渡し、各所から意見や感想等を頂戴している。	×	/	△	運営推進会議は、地区の区長や民生委員、地区社協、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となっている。家族には、運営推進会議の議事録を送付しているものの、利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍もあり、会議開催や内容が十分に伝わっていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、家族へ会議の参加を呼びかけたり、来訪時に、会議の説明をしたりするなど、理解が図られ、意見がもらえるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	実施状況・取り組み状況を報告し、情報公開に努めている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	資料を読んだ参加者からの意見や評価、質問などへのフィードバックを行っている。頂戴した意見や提案は、サービス向上に活かせるよう努め、結果等も必要に応じて報告している。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メンバー数を増やすことは難しいが、文書会議においても施設の活動状況が分かりやすくなるよう、資料内容を工夫している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	華族や松山市、地域包括支援センターなどに開催結果を報告している、	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を分かりやすく掲げ、全職員が共有し、現場で反映できるよう、取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	推進会やホーム便りなどで知らせているが、近所の人にも分かりやすく伝わるよう工夫する。		△	×	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向や会社からの勧めにより、対面・非対面の形で職員が研修を受けられる機会を提供している。				法人・事業所として、年間の研修計画を立てて、職員のスキルアップに努めている。また、外部のオンライン研修などに参加できるとともに、新人職員には、管理者やベテランの職員が一つ一つ丁寧に教えている。さらに、事業所として、希望休や有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場づくりに努めている。加えて、管理者は元気のない職員には声をかけて、随時相談に応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	社内で定期的及び新人対象の研修として、虐待研修や身体拘束研修など、利用者処遇改善や介護技術向上に努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	随時の面談や管理者からの聞き取りを行い、職員の賞与評価に反映している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、他施設との交流をすることは控えているが、外部研修等を通じて意見交換やスキル向上に役に立てるよう習得機会を提供している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎月の希望休や有休、介護休暇などが取れるようシフトを工夫し、リフレッシュできる機会を提供している。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修を通じ、学ぶ機会を設けている。また、職員会議等においても、適宜説明し、虐待防止や不適切ケア防止に努めている。				事業所では、職員会議や研修の場を活用して、不適切なケアが起こらないよう取り組んでいる。日頃から管理者等は、利用者へのかかり方に関する注意点など、職員に気になることは声かけや指導をしている。また、不適切な行為を発見した場合には、管理者等に報告して対応をしている。中には、若い男性職員が力加減が分からずに、気付かないうちに、力任せに介護や支援をしてしまうことが見られるため、管理者等から注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の申し送りに始まり、カンファレンスや職員会議等においても、利用者ケアについて話す機会を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	事故防止の観点からも日々介護会議を通じて不適切な介護ではないか皆で情報を共有し対応を検討している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	仕事の様子や職員個人の生活環境等を理解し、不安、悩み、疑問等に対して個別に相談できる体制を整えることで、適切な利用者ケアに当たることができるよう努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	正しく理解し、身体拘束をしないケアに向けて職員に働きかけている。また、やむを得ない場合の手順を遵守している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修や勉強会、職員会議や身体的拘束適正化検討委員会において、身体的拘束について学び、話し合う場を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	弊害を説明し、介護だけではなく、医療関係者からの説明の場を設け、家族の理解を図っている。				

愛媛県グループホームゆかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	ホーム内での本人の権利擁護のための支援や後見人との連絡を現場で行っている。実践の中で得た知識から理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	任意後見や成年後見についての情報を提供し、利用者の相談に乗って申請を支援している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	現在、後見人が必要な人や後見人が付いている利用者もいるため、連携しながら利用者支援に当たっている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成し、連絡が速やかにできるよう、日々周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初期対応ができるよう、日々対応能力を向上できるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリ・ハット、インシデント、介護事故に分けて報告し、事故防止のための対策について検討しながら、利用者ケアに当たっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個別の介護記録やカンファレンス等を通じ、利用者の身体状況の変化に応じた対応ができるよう、適宜話し合いながら事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	実例を紹介し、情報共有することで対応習得に努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情等があった場合は、真摯に受け止め、利用者及び家族が安心納得していただけるような対応に心掛けている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対策会議を通じて改善をし、利用者や家族との良い関係づくりに努める。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々のケアの中で、利用者の要望等をうかがいながら支援している。	/	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者の機嫌が良さそうな時などに、意見を聞いている。コロナ禍において、家族の来訪する機会は激減しているものの、電話連絡時などを活用して、家族から意見や要望の聞き取りをしている。また、管理者等は、職員会議や日々の業務中で、話しやすい環境づくりを行い、意見を聞くとともに、相談に応じることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設けており、連絡があった際には適宜対応している。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書の記載事項を説明し、また相談窓口についても説明している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	日々現場の様子を電話や対面で確認し、職員と対話する機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	一緒に現場で働きながら、一人一人の職員といつでも相談できる関係を築いている。また、その人らしい支援を検討している。	/	/	○	

愛媛県グループホームゆうかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	皆で取り組み、話し合って自己評価を作成し、共有している。				外部評価の自己評価は、職員全員が参加して検討を行い、作成をすることができている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告をするほか、全ての家族に会議録を送付している。さらに、職員には、評価結果の回覧を行うとともに、目標達成計画に取り組んでいる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	より良いサービス提供の為、評価を現場で活かせるよう、全職員が共有し、実践している。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価後は、課題や目標達成に向け、事業所全体で共有し、取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価の結果と計画は関係者に報告し、取り組んでいる。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みの成果を皆で確認し、課題を再確認して取り組む。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	災害対策マニュアル作成し、訓練を行っている。				事業所では、積極的に地域の災害関係の話し合いに参加をしている。コロナ禍以前は、地域の防災訓練にも参加協力することができていた。また、話し合った内容は職員間で共有するとともに、年2回実施する火災や風水害などを想定した避難訓練などに活かしている。コロナ禍もあり、利用者家族等アンケートの結果から、災害への備えに関する十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、事業所内に訓練の様子の写真を掲載したり、家族に避難訓練への参加協力を呼びかけたり、運営推進会議を活用して話し合うなど、職員間で周知方法を検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	火災や風水害などを想定した訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	備蓄品をわかるところに保管し、定期的に点検し、交換する。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域防災会議に参加し、避難マップ作りや共通の避難場所の確認やリヤカーなどの活用など支援体制を確認している。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の災害訓練に参加し、いざという時の為の訓練を行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	地域の認知症の拠点として、困った時に相談できる身近なグループホームを目指していきたい。開かれた場所としての情報公開ツールとしてホームページ制作に取り組んでいる。				事業所では、近隣住民から認知症高齢者に関する相談を受け、快く対応をしている。コロナ禍以前は、近隣住民を事業所に招待して、おやつやお茶を楽しみながら、交流をするとともに、相談に応じることもできていた。また、小学校の下校時には、交通安全の見守りで、生徒に声をかけることもある。現在、法人・事業所として、ホームページを作成しており、近々アップを予定している。さらに、コロナ禍において、会議や研修に参加できる機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センター、地区社協などと連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	近所には挨拶の時に、認知症相談の声掛けをし、職員には相談に応じられるスキルアップを図っている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	感染症対策観点から事業所開放はしてないが、感染終息時には地域に貢献できる場所になるよう、努力したい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地元の中学生実習の場として、受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地元の中学生実習の受け入れから始まり、地域イベントやボランティア活動などインフォーマルサポートができるようなホーム作りを目指していきたい。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 16名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890100427
事業所名 (ユニット名)	グループホーム ゆうかの里 2F
記入者(管理者) 氏名	渡部 庸
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 28 日

<p>【事業所理念】</p> <p>人を慈しむ「仁」の気持ちを持って以下に努める。</p> <p>一、仁の気持ちで利用者を大事にする。</p> <p>二、仁の気持ちで職員を大事にする。</p> <p>三、仁の気持ちで地域社会を大事にする。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1. 利用者が楽しみにしている食事づくりについて、誕生日や季節行事ごとに皆で話し合っ、手作りのメニューを作って提供するようにした。その結果、利用者から「楽しみだとか久しぶりに美味しかった」など評価された。</p> <p>2. 入浴の楽しめる個々の支援について、利用者ごとの好みの温度や入浴方法、入浴日時の変更をしながら入浴を支援した。その結果、「気持ちよかった」などの笑顔が見られた。</p> <p>3. 外部評価の公開について、コロナ禍において運営推進会議の書面開催が多い中、評価の結果や目標達成計画を資料で関係機関や近所、家族に書類で送り、助言を得ながら、より良い介護サービス提供につなげていきたい。今後も継続して報告して意見を集め、反映したい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は住宅街の一角にあり、朝夕には人の往来も多いものの、比較的に閑静な環境に立地している。以前医院として活用されていた建物を改良し、事業所として活用しているため、1階と2階の居室数に違いがあるほか、1階には車いす利用者が多く、2階には自力で歩行のできる利用者が多い傾向がある。また、コロナ禍において、事業所では外出や面会制限などが設けられているものの、日頃から海や近隣の公園まで散歩に出かけたり、LINEのオンライン機能を活用して、家族との面会できる機会を確保したりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、リビングに集まり、日々の生活を送る中で、ゲームやレクリエーションなどの活動を取り入れ、職員と一緒に過ごす雰囲気づくりを窺うことができた。加えて、法人・事業所として、年間の研修計画を立てて、職員のスキルアップに努めるとともに、新人職員には、管理者やベテランの職員が一つ一つ丁寧に教えている。管理者は元気がない職員には声をかけて、随時相談に応じることができている。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>入所時や日々の生活の中で、本人の希望や意向をうかがい、支援している。</p> <p>日々の様子(言葉や行動など)を観察し、引継ぎやカンファレンスなどを通じて検討している。</p> <p>入所時の聞き取りや、家族と連絡を取り合う中で、本人の思いを聞き取り、カンファレンス等で話し合っている。</p> <p>ホーム日誌、介護記録などに記録し、本人の思いや日々の情報を共有している。</p> <p>職員がすべてできていると思わず、日々の様子観察の中で、変化や行動の意味、原因を考え、適宜対応している。</p>	○	/	○	<p>入居時に、職員は家族から、思いや希望などの聞き取りをしている。また、入居後も、日常生活の中で、職員は利用者から思いや意向などを聞くこともある。さらに、聞き取った内容は、ホーム日誌等に記載し、職員間で情報を共有している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>フェイスシートや入所時の本人や家族からの話、友人への聞き取りにより、本人の生活習慣や活動状況を聞き取り、職員間で情報共有している。</p> <p>フェイスシートや日々の介護記録から得た情報により、本人が出来ることや分かることの把握を行い、日々の介護に反映している。</p> <p>入所時の聞き取りやフェイスシートで確認するとともに、毎日の行動や言葉などを参考に皆で話し合い、把握に努めている。</p> <p>不安要因を本人からさり気なく聞き取り、カンファレンスや引き継ぎにおいて話し合い、不安感の把握を行い、解決策の意見交換を行っている。</p> <p>勤務交代時の引き継ぎや介護記録等を通して、数日間の様子やその日の変化を把握している。</p>	/	/	○	<p>入居時に、職員はフェイスシートやアセスメントシートを活用して、家族から生活歴等を聞き取りをしている。また、入居後も、職員は利用者から情報を聞くほか、利用者の様子を観察しながら、ADL能力の状況や1日の生活リズムを把握して記録に残している。さらに、入居前に利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員から情報を聞いたり、病院からサマリー等の提供を受けたりすることもある。加えて、SNSのメール機能を活用して、タイムリーに職員間で情報共有をすることもある。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>職員は、把握した情報や本人への聞き取りを行い、本人の立場になった時に、何を求めているかを検討した上で対応を行っている。</p> <p>職員会議やカンファレンス、日々のケアの中で、本人にとってより良い支援内容を話し合っている。</p> <p>日々のケアの中で、本人の心身の状況や暮らし方などから課題がないかを見つめられるよう努めている。</p>	/	/	○	<p>事業所では、3か月に1回、アセスメント情報の更新をしている。また、利用者一人ひとりの日々の介護記録の状況を確認しながら、職員間で情報共有するとともに、アセスメントにも活用している。さらに、アセスメント情報をもとに、利用者や家族の意見を交えて、管理者や計画作成担当者等を中心に、カンファレンスの中で検討している。</p>

愛媛県グループホームゆうかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いを聞き取り、可能な限り意向が反映できるよう努めている。				事前に、日々のかかわりの中で、利用者の思いや意見を聞くほか、家族から電話連絡時等を活用して、意見や意向などの情報を聞いている。アセスメント情報をもとに、利用者や家族の意見のほか、医師等の関係者の意見を踏まえて、3か月に1回実施するカンファレンスの中で話し合い、その人らしい介護計画を立案している。また、利用者や家族の意見が反映された計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	モニタリングやカンファレンス、家族との連絡、その他必要に応じて話し合い、利用者が安心して生活できる計画となるよう努めている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	モニタリングやカンファレンス、家族との連絡、その他必要に応じて話し合い、利用者が安心して生活できる計画となるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	可能な限り、家族や関係機関等の協力が得られるような計画を作成している。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員は、介護計画の内容を把握して回覧し、共有している。				事業所では、介護計画の変更時等に、カンファレンスの中で話し合うほか、計画の回覧を行い、職員間で内容を共有している。また、介護経過記録やモニタリング用紙等を活用して、介護計画の内容に基づいたサービス内容を記載するとともに、日々のかかわりの中で、新たに得られた情報を追加して、利用者の現状確認などのモニタリングに活かしている。さらに、ホーム日誌や利用者毎の介護記録には、体調や食事量、排泄状況、睡眠状況などの生活上の情報をまとめて記載することができている。加えて、利用者が発した言葉や様子なども記録に残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個別介護記録に記入し、適宜またはモニタリングなどを通じて検討したうえで、必要な支援を行っている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個々の利用者の暮らしを観察し、介護記録には、本人の話したこと、その表情や状況を記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	各利用者一人ひとりの機嫌がよい時、悪い時を確認し、それに応じた介護方法の工夫やアイデアを取り入れるように、個別介護記録に記入している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に介護計画は見直しを行っているが、本人の心身状態や入院後の退院時には、介護計画の見直しを行っている。				介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。また、毎月実施する職員会議を活用して、利用者一人ひとりのモニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況の変化が生じた場合には、適宜計画を変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員は、月一度程度以外にも、日頃からの本人との会話や行動状況の観察を行い、また介護記録により、本人の様子を把握し、現状を確認を行っている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族等にも意向や必要なケア、希望するケアなどをうかがいながら、カンファレンスなどで見直しと検討を行い、新たに計画を作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	本人の状況変化で介護計画の変更が必要な場合は、その日の勤務者やカンファレンスなどを通じて話し合いを行っている。				月1回職員会議を開催するほか、3か月に1回カンファレンスを実施し、利用者のケアなどを職員間で検討している。また、緊急案件のある場合には、その都度ケア会議等を開催している。さらに、日々の業務の中で、職員同士で話し合い、その情報をもとに、職員会議等で意見を出し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	カンファレンスでは、職員の情報や気づきの意見交換や話し合いを行い、時には本人を交えて行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	感染症対策に留意しながら、話し合う場を設けるとともに、会議で決定した内容等については、回覧することで情報共有している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加が出来ない職員には、記録の回覧を行い、共有している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	カンファレンスなどが行うことで、話し合いや情報共有の場を設けている。また、回覧することで、再度情報確認ができるようにしている。				日々の朝夕の申し送り時には、ホーム日誌や連絡ノート、介護記録等を活用して、申し送りをしている。また、必要な情報は、SNSのメール機能を活用して一斉送信を行い、情報共有をすることもある。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	個別介護記録や申し送りなどを通して、情報共有ができるよう努めている。また、数日間の利用者の様子、家族からの伝言や要望を引き継ぎの際に伝達している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	本人のペースで生活できるよう、支援している。	/	/	/	日々の着替えの際に、着る服を選んでもらったり、「海に行きたい、公園に行きたい」などの意見が出され、散歩コースを決めてもらったりするなど、職員は声をかけ、利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、習字や俳句づくりなど、利用者一人ひとりのしたいことを自由に選んでもらいながら、楽しみのある生活を送ることができている。さらに、レクリエーション時には、利用者の特性に応じた支援やかかわりを行い、達成感などから、笑顔が見られるような支援にも取り組んでいる。加えて、意思を言い表すことが難しい利用者には、職員が表情やしぐさを観察しながら、二者択一などに絞り、可能な範囲で選択してもらえるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	本人が自己決定できるように、例えば散歩の場所や誕生日のメニューなど、出来る限り本人に選んでもらえるよう、問いかけたり、話したりの支援に努めている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者のその日の気分に合わせて、散歩やレクリエーションの参加、不参加など、自己決定が必要な時は、本人の意思を尊重している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	職員は、集団生活での決まった時間の声かけは行っているが、食事時間を遅らせたり入浴時間や散歩時間の変更を行うなど、本人の体調や気分を優先して支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が活気や生きがいを持って過ごせるよう、利用者一人一人の趣味やレクリエーション活動、季節行事などを実施することで、楽しみのある生活となるよう努めている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や体の動きなどを観察し、本人が安寧に過ごすための支援方法について常に話し合い、実践している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	利用者、職員の人権やプライバシーに配慮した言動を心がけ、職員会議やインターネットでの情報の閲覧などで共有を行っている。	/	○	○	○ 管理者等は、職員会議やカンファレンス等の機会を活用して、職員に利用者の尊厳を尊重した支援やプライバシーに配慮したかかわりが持てるように、指導や注意喚起をしている。また、日々の支援の中で、職員は利用者への人権や尊厳を意識した支援に努めている。さらに、職員は居室等をプライバシーのある空間と認識し、居室へ入室する際には、ノックや声かけを行うなどの配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	職員は、利用者は人生の先輩であることを理解しており、言葉使いやプライバシーに配慮し、1対1の対応を心がけ、側で声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	居室への立ち入りやトイレ利用の際には、ドアのノックや声かけによって、確認を行い実施している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	職員は、居室は利用者専用の場所であることを理解している。訪室の際はノックや声かけにより、了解を得てから入室している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会議やカンファレンスなどで、利用者の個人情報漏洩防止の観点から、外部への情報流出に厳重注意するように把握している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	得意なことや取り組みたいことなどを聞き取り、水やりや掃除など役割をもって生活していただくことで、互いに助け合える関係性を築いている。	/	/	/	1階ユニットでは、利用者に洗濯物たたみや来客時の接待等を手伝ってもらい、職員は「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、2階ユニットでは、利用者に食器洗いや配下膳、拭き掃除、洗濯物たたみなどを手伝ってもらい、感謝の言葉を伝えている。さらに、利用者同士がトラブルにならないように、食事の時間をずらしたり、配席などの配慮をしたりするなどの対応をしている。時には、利用者同士が言い合いなどのトラブルになることがあり、職員は早期に間に入るとともに、別の場所に移動して、利用者の話を聞いている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	理解しており、利用者同士でできること、できないことを把握し、互いに支えあいながら生活している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	性格や生活パターン等を把握し、トラブルが起こらないよう努めている。また、トラブルが発生した際には、両者の意見を尊重し、話題を変えたり、時間をずらして声掛けするなどの対応をしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入り、双方の訴えを確認したうえで、穏やかに過ごしていただける支援を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の聞き取りや、日頃からの本人の話、電話の話し相手や面会者の確認により、人間関係を把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時に家族からの聞き取りや、入居後には、日々の本人との会話の中からの聞き取りなどで把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	新型コロナウイルスもあり、友人や知人に積極的に会いにいけませんが、電話で話したり、距離を保ったドア越し、ガラス越しの面会など、可能な範囲で対応している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	新型コロナウイルス感染防止のため、面会制限があるが、電話や距離を保ったドア越し、ガラス越しでやり取りで、家族や友人などとの関係が途切れないように努めている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	近くへの散歩や外気浴は行っているが、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、可能な限り外部の方との接触が少ない場所への外出やドライブを行っている。	×	△	○	コロナ禍において、事業所では外出する機会は減っているものの、天気の良い日には、利用者に行きたいコースを確認して、海や近隣の公園などに散歩に出かけることができている。また、玄関先に置いてあるプランターの手話したり、日向ぼっこや外気浴をしたりするなど、気分転換が図れるよう支援している。さらに、車いすの利用者も、積極的に外出することができている。加えて、利用者と一緒にケーキなどの買い物に出かけることもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	読み聞かせのボランティアの方が2回来られ、楽しい時間を過ごされている。新型コロナウイルス感染防止の観点から、面会制限もあり限られた来訪となっている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	本人の体調を踏まえて様子を見ながら、窓を開放し新鮮な空気を吸って頂いたり、ベランダでの外気浴を行ったり、プランターの花を眺めて頂くなど、気分転換を図れるよう取り組んでいる。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望で、病院受診の家族の付き添いや買い物の付き添いをして頂いたり、地域の方が新聞紙をさり気なく置いて下さったりなどの支援がある。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ズームやオンデマンドでの研修や勉強会、職員会議等を通じて学ぶ機会を設け、ケアの実践に行かせるように行っている。				1階ユニットでは、日々のラジオ体操を行うほか、車いすの利用者は、マッサージや足上げ運動をするなど、足などの筋力維持に努めている。また、2階ユニットでは、日々のラジオ体操や散歩、階段昇降などを行い、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、日常生活の中で、トランプや将棋、ジグソーパズルなど、利用者自身で考える知的活動も取り入れている。加えて、事業所では、できることは自分でしてもらうなど、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	ズームやオンデマンドの研修や訪問診療時の医師への質問や看護師からの話を聞いた上で、現場での実践で理解し、普段の機能訓練や日常生活訓練を通じ、機能維持・向上につながるケアに努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人の有する能力を維持、向上させるため、利用者本人ができることは、傍で様子観察を行い、自身でして頂くよう支援している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の支援や会話の中で、その人の楽しみやできることを把握している。				根野菜の手話や花の水やり、食器洗い、配下膳など、職員は利用者役割を担ってもらえるよう支援している。また、事業所では、俳句づくりをしている利用者もおり、作った作品を新聞に投稿するなど、張り合いや楽しみとなるような支援にも努めている。さらに、トランプやパズル、将棋、風船パレー、習字など、多くのレクリエーションを取り入れ、職員は利用者への楽しみのある生活が送れるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者一人一人の趣味や個性を把握し、役割(掃除や花の水やりなど)と生きがい(他利用者のお手伝いなど)を持って生活できるよう支援している。	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	読み聞かせのボランティアの訪問でのふれあいや利用者が職員と共に、近所周りの掃除やゴミ拾いを行うことで、地域との交流を大切にしている。				

愛媛県グループホームゆうかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その日の気候や本人の希望に合わせた衣類の選択を勧めている。また、整容の声がけや外部への散髪の勧めや支援もしている。				自分で服を選び、着替えることのできている利用者もいる。また、洗面台の鏡を活用して、衣服や髪形などを整えることができるように、職員は促す声をかけるとともに、できていない部分のサポートをしている。さらに、2か月に1回、訪問整容サービスの来訪があり、髪型を整えることもできている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	まずは、本人の好みを優先し、季節感を持って快適に生活できるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスするなど本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者の気持ちを汲み取りながら、さりげなくアドバイスするなど、気候や環境に適した服装となるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	新型コロナウイルス感染防止のため、外出回数が減ってはいるが、散歩や買い物時に利用者の希望や季節に適した服装ができるよう支援している。季節行事では、季節感を味わえる服装を楽しんでいただいている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声掛けし、不快にならないよう笑顔で接したり声掛けを工夫しながら、支援している。		○	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	訪問散髪やご本人が希望する理髪店を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度な方でも、体調に合わせた季節感のある快適な服装を勧めたり、本人の好みに合わせて服装を選べるように聞き取りを行い支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	口腔ケアの研修やカンファレンスなどで勉強し、また日々の食事介助の実践を行うことで、食事のプロセスを理解している。				業者の食材の配食サービスを活用して、栄養価を考慮したメニューを現場で職員がアレンジするほか、利用者にご下しえや配下膳などのできることを手伝ってもらいながら、調理をしている。誕生日には、食事のメニューや誕生日ケーキなど、可能な範囲で、利用者の希望に対応できるよう努めている。ケーキ作りが得意な利用者もおり、他の利用者の誕生日に腕をふるうこともある。利用者の口腔・嚥下機能の状態に応じて、刻みやトミの使用などの食の形態にも対応をしている。食器類は、以前から使い慣れた物を自宅から持参してもらい、自身の食事に関する認識を高めている。コロナ禍において、食事の際には、職員が利用者と一緒に食事をすることは控えているものの、事業所では音楽を流すなど、食事時間帯における雰囲気づくりを心がけている。さらに、食べこぼしなどが多い利用者には、エプロンを使用し、衣服等が汚れないような配慮もしている。加えて、利用者と一緒に干し柿づくりやリンゴジャムづくりなどを行い、美味しく食べることもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	調理までは職員が行うが、片付けなどは利用者と一緒にしている。誕生日には、本人の好みのメニューを聞き、それに合わせた手作りメニューを実践している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	片付けなどを手伝っていただくことで、役割を持ち、達成感を味わうことが出来る生活を支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	食事内容の好き嫌いやアレルギーなど、入所時の本人や家族の聞き取りを通じ、把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	食材は業者委託であるため、献立や栄養バランス、カロリーについては高齢者に適した内容となっている。苦手な食材がある際には、負担とならないようメニューをアレンジしたりと配慮している。季節行事においては、季節の食材を使ったメニューを提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	◎	一人一人の状況を把握し、食事形態等を検討し、必要時にはアレンジして提供している。すべてをミキサー食や刻み、お粥状にするだけではなく、その日の利用者の嚥下状況に合わせた対応を行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人が以前から使用していたものを持ち込んでいただいたり、備品についても本人が選んだものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	利用者と一緒に食事をすることは難しいが、介助やサポートが必要な利用者が出た場合には、自尊心が傷つかないよう配慮した支援を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な利用者が出た場合には、本人の好みに近いものを提供している。また、感染症対策に留意しながら声がけを行い、食材や料理の種類を説明したり、食事の感想などを伺いながら食事提供している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養バランスやカロリーなどを考慮した献立と食材が業者から届いている。食事量や水分量は記録に残すことで、必要な量が摂取できているか確認している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	体調や摂取量を踏まえ、声掛けや提供する内容や量、回数に配慮して、十分な食事と水分が摂取できるよう支援している。必要時には、主治医と相談の上、高カロリー食の提供を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的な話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養バランスやカロリーなどを考慮した献立と食材が業者から届いている。季節行事においては、利用者の好みや季節感のある食事、おやつを提供している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	週に1〜2回の調理器具の消毒や食器洗浄後の保温期での熱消毒を行い、衛生管理を行っている。また、定期的に配達される食材の衛生管理に十分注意している。				

愛媛県グループホームゆうかの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修や勉強会、ミーティングなどで口腔ケアの方法や重要性について学び、実践につなげている。				職員は、オンライン研修などを受講し、口腔ケアの重要性を理解しているほか、歯科医や歯科衛生士等から、助言や指導をもらい、日々の口腔ケアを支援している。食事前に、利用者は職員と一緒に口腔ケア体操を実施している。また、毎食後に、職員は利用者に声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。さらに、口腔ケア時には、職員は見守りや磨き残しなどの介助を行うとともに、一人ひとりの口腔内の状況を確認し、必要に応じて、訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎月、訪問歯科診療からの口腔ケアの助言を閲覧しており、個々の口腔状態は把握している。毎回、食事の際には、咀嚼状況を観察し、必要時は訪問歯科医に相談している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	研修や職員会議において、口腔ケアの重要性や口腔ケアの正しい方法を勉強、実施している。訪問歯科診療時に、疑問点があれば質問し、支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の手入れは、本人が出来る場合は見守りを行い、本人が出来ない場合は職員が義歯の手入れを行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	職員は、毎食後、利用者の口腔内の磨き残しや出血の有無の声をかけや観察を行っている。食前には口腔体操、食後には口腔ケアを支援し、記録している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	職員は、毎日口腔ケアの際に口腔内を確認し、虫歯や不具合、訴えを確認後、訪問歯科診療に連絡、早期の訪問歯科診療の対応を行って頂いている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	カンファレンスやミーティングにおいて、トイレでの排泄は人の尊厳として重要であり、安易にオムツを使用することは身体機能の低下や心のダメージになることを理解している。				事業所では、利用者一人ひとりの1日の排泄リズムを把握し、「できる限りトイレで排泄すること」を目標に掲げて、職員はさりげない声かけやトイレ誘導を行い、利用者が失敗しないよう心がけた支援に努めている。中には、夜間帯を中心に、ポータブルトイレを活用している利用者もいる。また、利用者の状態に合わせて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を職員間で検討するとともに、家族に確認の上で、使用をしている。さらに、散歩やラジオ体操を行うほか、水分量を増やすなど、利用者が自然排便できるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	カンファレンスや職員会議、訪問診療、訪問看護からの指導により、便秘によって引き起こされる身体への影響を把握している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	把握できるよう、個別介護記録に記入している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日々のケアやカンファレンス等において、利用者の身体状況や排せつ状況を観察し、トイレ誘導のタイミングや紙パンツの使用等について検討し、支援している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄記録や本人の訴えにより、個々の排泄パターンを把握している。排泄困難時は、日常生活において、排便のリズムを促すようにラジオ体操や散歩の勧め、水分を十分摂取するなどの取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンを排泄記録で確認しながら、さりげないトイレ誘導の声かけを行っている。寒い日は特にこまめにトイレの声かけを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	入所時に本人や家族からの希望や本人や家族の意向を確認し、選択されたものを使用している。状態の変化に応じて、本人、家族に確認し、職員で話し合いを行い、適切なタイプの紙オムツなどを選んでいる。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	本人の身体変化や状況に応じて、その都度下着や紙パンツ、紙オムツ、尿パッドの種類を使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	自然排便となるよう運動や水分摂取量などに配慮しながら、必要に応じて便秘にならない取り組みとして服薬調整をしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	曜日は決まっているが、入る順番などは本人のタイミングで実施している。利用者の好みで、夜間に入浴される方もいる。	◎		◎	利用者は、週2回入浴をすることができる。また、事業所では、入浴できる日にちは決まっているものの、利用者の希望に応じて、湯の温度や入浴時間、入浴する時間帯を変更するなど、柔軟な対応に努めている。夕方や夜間の時間帯の入浴希望にも対応をしているほか、夏場には、朝の起床時にシャワーを浴びる利用者もいる。さらに、入浴を拒む利用者には、時間帯を変更したり、職員を交代して声かけをしたりするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができる。加えて、季節に合わせて、ゆず湯にするなど、利用者に季節の香りを感じてもらいながら、少しでも利用者が楽しめるような入浴支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	体に負担がかからない範囲で、本人の希望する入浴時間を確保している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できるところはご自身で洗身していただき、できないところは職員が介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	時間を置いたり、声掛けを工夫しながら、スムーズに入浴いただけるよう工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックや体調確認を行い、入浴できるかどうか確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	個別の介護記録に記入し、職員全員で情報共有できるようにしている。	/	/	/	事業所では、できる限り眠剤などを服薬しない支援に努めており、体操や散歩、レクリエーション、趣味の活動への参加などを促し、利用者が夜間に良眠できるよう努めている。また、利用者一人ひとりの生活リズムを大切にしたい支援にも取り組んでおり、休息や昼寝をしている利用者もいる。さらに、昼夜逆転などが続く利用者には、利用者の体調面を考えて、医師に相談するとともに、指示を受けて、服薬などの適切な対応に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	生活リズムが崩れないよう、日中活動を取り入れたり、昼間の休息時間を工夫したりして、昼夜逆転しないよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	生活リズムを整えることで夜間良眠できるよう支援し、医師等の判断が必要な場合には、服薬後の様子観察をして医師にも報告しながら、適切な服薬となるよう支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼夜逆転に留意しながら、日中も休息できるよう配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	手紙や電話で家族などと連絡が取れるよう、支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	普段無口な利用者にも家族の声を聞き、表情の変化を観察するなど、実施している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話をかける支援を実施している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者本人に聞かせ、その時の表情などを家族に報告するなど、実施している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	毎月の近況報告等で知らせたり、家族に電話依頼をしたり、こちらからも電話をかけて連絡が取れるよう支援している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	新型コロナウイルス感染拡大に注意しながら、ほしいものを聞き、代理で買い物できるなど楽しさを提供している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	新型コロナウイルス感染拡大の観点から、現在は買い物に行く機会が減っているが、今後、終息した場合には、買い物できる機会を設ける。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物リストを聞き、代理で買うなど積極的買い物ではないが、買い物の楽しみの提供に努めている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と本人の意向を尊重し、金銭トラブルにならないよう対応しながら、金銭所持する機会を設けている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に家族と相談し、お金管理について十分話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理の必要がある利用者については、通帳と印鑑を分けて管理し、出し入れに当たってもきちんと記録に残している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	理容・美容室通い支援、新聞購読支援など利用者個々の事情に応じ、可能な限りの対応を行っている。	/	○	/	コロナ禍において、事業所では面会や外出などの制限が設けられているものの、利用者や家族の希望や要望に応じて、買い物の同行支援を行ったり、食事メニューの追加等に対応したり、家族と理髪店へ出かける準備を行うなど、可能な範囲で柔軟に対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	新型コロナウイルス感染拡大の観点から、現在は直接会うことが難しいが、画面やガラス張りや気軽に安否確認できるような環境整備を行っている。	○	○	○	事業所の玄関は、1階と2階部分は別々となっている。また、1階ユニットでは、玄関近くにある大きな窓から、通学をする生徒などの見守りや手を振ることができる。さらに、1階と2階ユニットともに、玄関は基本的に開放し、自由に出入りできるようにしている。加えて、玄関先に花を置き、親しみやすい雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	装飾品や備品なども、季節感を感じられるものに変えながら、居心地の良い環境を整えられるよう努めている。	○	○	○	リビングにはテーブルやソファが置かれ、利用者はテレビを見たり、好きなレクリエーションをしたり、食事づくりの手伝いをしたりするなど、好きなことや役割を担いながら、思い思いの場所で、思い思いの生活を送ることができている。また、事業所内には、季節の飾り付けや利用者と一緒に作成した作品のほか、廊下にはレクリエーション時などの写真や絵画が飾られている。さらに、オープンキッチンから、職員は利用者の様子を見渡せるようになっている。加えて、空気清浄機の配置や換気を行い、臭いなどの対策に努めるとともに、清掃や消毒が行われ、快適な環境づくりに努めている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	居心地の良い環境づくりのため、衛生管理や快適な空間が維持できるよう換気や消臭に努めている。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じられるよう、備品や装飾品などにも変化を持たせている。また、利用者が安心安全に暮らせるような環境づくりに努めている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	日々のレクリエーションや季節行事などを通じ、利用者間の交流ができるよう支援している。また、日々の生活の中で互いに助け合い、声掛け合いながら生活している。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンや扉の開け方にも配慮し、プライバシーに留意しながら支援している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅使っていたものなどを継続して使ったり、馴染のことや趣味なども継続することで、居心地よく生活できるよう支援している。	○	/	/	居室には、ベッドやエアコン、たんすなどが備え付けられている。また、家族写真やぬいぐるみ、人形、テレビなど、自身の慣れ親しんだ物や使い慣れた物を持ち込み、くつろげるような空間づくりができている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	話し合って役割を分け、下膳や洗濯たみ、血洗い、見張り役、大声役など生きがいを感じられるようできることを活かすようにしている。	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	薬や洗剤の誤飲や刃物の扱いなどに注意し、事故を未然に予防できるよう職員間で共有している。	/	/	/	調理の下ごしらえや配下膳、血洗いなど、利用者に応じた役割を担ってもらい、生きがいが感じられるような支援をしている。また、居室やトイレを分かりやすく表示を行い、利用者が間違わずに、自立した生活が送れるようにしている。さらに、編み物などの道具を用意し、利用者が手に取れるようにしている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	趣味の道具を居室や共用空間に置いたり、普段から使えるように声掛けするなどして、意欲を持って生活できるよう支援している。また、以前から使用していた馴染の物を日常使いすることにより、安心感を持って生活できるよう支援している。	/	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は開錠しており、夜間は防犯のため施錠している。日中、施錠することは利用者を囲い込むことで弊害が乗ることを、職員も理解している。	◎	○	○	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、日中には玄関等を開放している。また、外出希望がある利用者には、職員が付き添って、散歩などに出かけている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時や施設見学の際など、適宜説明している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施錠していないため、利用者が一人で外に出てしまうことを防げるよう、職員は見守りを行っている。また、外に出たい利用者については、職員と一緒に外出することで、気分転換を図っている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時、家族や関係機関から聞き取りを行い、把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の記録に残すことで、職員間で情報共有し、必要に応じて医療機関に繋げている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	設問のとおり、実施している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者や家族に意向確認し、希望する医療機関での診療が受けられるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所時に家族に協力について説明し、家族の協力を得ながら、訪問診療や入院時の支援体制を実施している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時の結果について家族に報告するとともに職員間で共有するよう、実施している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリーやフェイスシートなど情報を共有し利用者のための情報提供を実施している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中にも情報交換や退院支援を実施している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入退院の際、利用者に関する情報共有や今後の支援方法、通院方法について互いに確認し、今後の協力体制構築に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医や訪問看護師に相談することで、利用者ケアに関する疑問や不安、必要な治療等について情報提供や必要な治療を受けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力体制があるため、気軽に相談でき、職員も安心してケアに当たることができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の様子観察や記録を通じ、職員間で情報共有したり、相談したりして、利用者の体調の変化にすぐ対応できるよう努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	眠剤や下剤などの薬説明書を熟読するとともに薬剤師とも相談し、用法用量を遵守している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	声掛けて服薬することで、誤薬を防いでいる。また、飲み忘れがないよう、飲んだ後の確認作業も行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の記録を通じ、職員間で情報共有をしたり、職員間やカンファレンスなどで話し合う機会を設けたりすることで、服薬の必要性について検討している。また、必要に応じ、医師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	必要に応じて家族や医師、看護士と情報共有したり、服薬について相談したりしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化指針を作成し、入居時に同意をもらい、また終末期にも再度確認をもらい、医療連携して対応している。	/	/	/	事業所には、「医療連携体制に係る指針」があり、入居時に可能な対応を家族等に説明し、同意を得ている。また、近隣の病院や訪問看護ステーションと連携が図られ、看取り支援の体制づくりができています。事業所では、利用者や家族等の希望に応じて、看取り支援に対応するものの、他の施設や病院へ転院する利用者も多い。利用者家族等アンケート結果から、重度化や終末期への支援について、十分な理解が得られていないことが窺えるため、入居時の説明に加えて、状態の変化などに応じて、その都度説明を行うなど、理解が図られるような取組を期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合に対応については、協力医療機関や家族と話し合い、今後の方針について検討している。	x	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	管理者として、利用者の現状を検討し、今の職員でできることを把握し、医療連携を図りながら、終末期の支援を実施している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	家族とも相談し、職員でできることも説明し、理解を得ながら、終末期の支援を実施している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族とも常に連絡体制を取りながら、往診や訪問看護と連携し、対応・実施している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族から不安や悩みなどを聞いた際は、寄り添いながら可能な支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策の重要性を理解しており、研修においても感染症に関する学びを深めている。	/	/	/	事業所には、「医療連携体制に係る指針」があり、入居時に可能な対応を家族等に説明し、同意を得ている。また、近隣の病院や訪問看護ステーションと連携が図られ、看取り支援の体制づくりができています。事業所では、利用者や家族等の希望に応じて、看取り支援に対応するものの、他の施設や病院へ転院する利用者も多い。利用者家族等アンケート結果から、重度化や終末期への支援について、十分な理解が得られていないことが窺えるため、入居時の説明に加えて、状態の変化などに応じて、その都度説明を行うなど、理解が図られるような取組を期待したい。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	病院の感染症対策専門の看護師を招き、勉強会を実施しながら、現場での対応を勉強している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	職員会議や研修等を通じ、感染症等に関する情報を入手し、職員で共有を行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	関係機関からの情報を共有し、拡大防止に対応・実施している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、手指消毒、定期的な換気、衛生管理などを行い、感染症対策に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者の家族の気持ちを理解しながら、本人のうれしきや苦しさを分かち合えるよう、日頃関係作りを実施している。				コロナ禍において、家族が参加できる行事開催などは自粛している。事業所では、家族との関係性を維持するために、毎月の請求書の送付に合わせて、事業所便りや職員からの手紙を送付して、利用者の様子を伝えていく。また、LINEなどのSNSの機能を活用して、写真や映像を送付したり、家族とのオンライン上で面会したりできる機会づくりをしている。さらに、運営推進会議の記録等は、2か月に1回家族に送付し、事業所内の出来事も伝えている。コロナ禍の収束後には、家族が事業所内で行うイベントや行事などの活動に参加できる機会づくりができることを期待したい。加えて、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や異動など、事業所内の出来事が、コロナ禍で来訪できていないこともあり、十分に家族に周知できていないことが窺えるため、事業所便りを活用して掲載するなど、職員間で周知方法を検討することを期待したい。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	新型コロナウイルス感染対策のため、直接会っての面会は制限しているが、電話等を通じて連絡を取り合う機会を設けることで、気軽に連絡できる環境を作っている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	新型コロナウイルス感染対策のため、現在は難しいが、終息した際には実施できるよう検討している。			○		△
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の近況報告や施設だよりなどをお送りすることで、利用者の状況や施設の取り組みについて知っていただけるよう努めている。			○		○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	定期的報告以外にも、家族から問い合わせがあった場合には、理解できるよう説明を行っている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	毎月の近況報告や施設だよりや電話連絡を伝え、家族の理解促進に努めている。また、本人との電話等でのやり取りの機会を設けることで、つながりを継続している。夫婦同士の関係改善につながるよう外出機会を提供し、さりげなく応援している。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月の近況報告や施設だよりなどをお送りすることで、利用者の状況や施設の取り組みについて知っていただけるよう努めている。			x		○
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	家族や夫婦同士で通院や美容付き添いの機会を提供し、交流を支援している。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時や毎月の近況報告などを通じ、認知症や加齢によるリスク等について説明している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	気軽に声をかけていただけるよう、日々連絡相談できる関係づくりを心かけて実施している。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	書面や電話での説明を行い、理解を得るように、努めている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去相談に応じ、本人や家族が望まれるところに転居できるよう、支援している。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	改正や変更の事項がある時は、文書を送付し、電話での説明もし、同意を得ている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時から地域とのつながりが持てるよう努めているが、新型コロナウイルス感染対策のため、現在は難しい。終息した際には、地域との交流機会などを設けられるよう検討している。	/	○	/	近隣住民が事業所へ古新聞を提供してくれたり、事業所前を通る人が、声をかけてくれたりすることもある。また、利用者が一人で歩いている場合や迷子になった場合には、近隣住民に連れてきてもらうなどの協力体制もできている。さらに、地域の区長や民生委員が事業所に協力的である。コロナ禍以前は、地域の住む高齢者を事業所に招待して、一緒におやつやお茶を楽しむなどの交流を図ることもできていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の民生委員や区長など地域関係者との連絡・挨拶して交流を図っている。地域の認知症対策や地域災害対策の会議にも参加し、互助ができる部分を探り、協力体制に努めている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	地域住民がさり気なく、新聞古紙を持参したり、徘徊時の利用者を一緒に探したりするなど、理解者が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	散歩時の挨拶を交わす、地域の清掃中の声掛け合いを通して地域住民同士の付き添いを継続している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時の挨拶を交わす、地域の清掃中の声掛け合いを通して地域住民同士の付き添いを継続している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	働きかけにより、地域の人々が紙芝居を見せる為来られたり、教会から讃美歌を歌ってくれたりしている。新型コロナウイルス感染対策のため、現在は難しいが、終息した際には継続して実施する。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	公民館での展示会参加や図書館での図書貸し出しなどの地域資源を活用し、楽しく過ごせるよう継続して支援する。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の散髪店主との関係づくりや文化施設の利用を継続し、支援の輪を広げていくよう、実施している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、文書会議の形で継続している。なお、事前に資料を渡し、各所から意見や感想等を頂戴している。	×	/	△	運営推進会議は、地区の区長や民生委員、地区社協、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、会議は書面開催となっている。家族には、運営推進会議の議事録を送付しているものの、利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍もあり、会議開催や内容が十分に伝わっていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、家族へ会議の参加を呼びかけたり、来訪時に、会議の説明をしたりするなど、理解が図られ、意見がもらえるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	実施状況・取り組み状況を報告し、情報公開に努めている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	資料を読んだ参加者からの意見や評価、質問などへのフィードバックを行っている。頂戴した意見や提案は、サービス向上に活かせるよう努め、結果等も必要に応じて報告している。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メンバー数を増やすことは難しいが、文書会議においても施設の活動状況が分かりやすくなるよう、資料内容を工夫している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	華族や松山市、地域包括支援センターなどに開催結果を報告している、	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を分かりやすく掲げ、全職員が共有し、現場で反映できるよう、取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	推進会やホーム便りなどで知らせているが、近所の人にも分かりやすく伝わるよう工夫する。		△	×	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向や会社からの勧めにより、対面・非対面の形で職員が研修を受けられる機会を提供している。				法人・事業所として、年間の研修計画を立てて、職員のスキルアップに努めている。また、外部のオンライン研修などに参加できるとともに、新人職員には、管理者やベテランの職員が一つ一つ丁寧に教えている。さらに、事業所として、希望休や有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場づくりに努めている。加えて、管理者は元気がない職員には声をかけて、随時相談に応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	社内で定期的及び新人対象の研修として、虐待研修や身体拘束研修など、利用者処遇改善や介護技術向上に努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	随時の面談や管理者からの聞き取りを行い、職員の賞与評価に反映している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、他施設との交流をすることは控えているが、外部研修等を通じて意見交換やスキル向上に役に立てるよう習得機会を提供している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎月の希望休や有休、介護休暇などが取れるようシフトを工夫し、リフレッシュできる機会を提供している。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修を通じ、学ぶ機会を設けている。また、職員会議等においても、適宜説明し、虐待防止や不適切ケア防止に努めている。				事業所では、職員会議や研修の場を活用して、不適切なケアが起こらないよう取り組んでいる。日頃から管理者等は、利用者へのかかわり方に関する注意点など、職員に気になることは声かけや指導をしている。また、不適切な行為を発見した場合には、管理者等に報告して対応をしている。中には、若い男性職員が力加減が分からずに、気付かないうちに、力任せに介護や支援をしてしまうことが見られるため、管理者等から注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の申し送りに始まり、カンファレンスや職員会議等においても、利用者ケアについて話す機会を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	事故防止の観点からも日々介護会議を通じて不適切な介護ではないか皆で情報を共有し対応を検討している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	仕事の様子や職員個人の生活環境等を理解し、不安、悩み、疑問等に対して個別に相談できる体制を整えることで、適切な利用者ケアに当たることができるよう努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	正しく理解し、身体拘束をしないケアに向けて職員に働きかけている。また、やむを得ない場合の手順を遵守している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修や勉強会、職員会議や身体的拘束適正化検討委員会において、身体的拘束について学び、話し合う場を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	弊害を説明し、介護だけではなく、医療関係者からの説明の場を設け、家族の理解を図っている。				

愛媛県グループホームゆかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	ホーム内での本人の権利擁護のための支援や後見人との連絡を現場で行っている。実践の中で得た知識から理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	任意後見や成年後見についての情報を提供し、利用者の相談に乗って申請を支援している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	現在、後見人が必要な人や後見人が付いている利用者もいるため、連携しながら利用者支援に当たっている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成し、連絡が速やかにできるよう、日々周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初期対応ができるよう、日々対応能力を向上できるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリ・ハット、インシデント、介護事故に分けて報告し、事故防止のための対策について検討しながら、利用者ケアに当たっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個別の介護記録やカンファレンス等を通じ、利用者の身体状況の変化に応じた対応ができるよう、適宜話し合いながら事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	実例を紹介し、情報共有することで対応習得に努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情等があった場合は、真摯に受け止め、利用者及び家族が安心納得していただけるような対応に心掛けている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対策会議を通じて改善をし、利用者や家族との良い関係づくりに努める。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々のケアの中で、利用者の要望等をうかがいながら支援している。	/	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者の機嫌が良さそうな時などに、意見を聞いている。コロナ禍において、家族の来訪する機会は激減しているものの、電話連絡時などを活用して、家族から意見や要望の聞き取りをしている。また、管理者等は、職員会議や日々の業務中で、話しやすい環境づくりを行い、意見を聞くとともに、相談に応じることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を設けており、連絡があった際には適宜対応している。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書の記載事項を説明し、また相談窓口についても説明している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	日々現場の様子を電話や対面で確認し、職員と対話する機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	一緒に現場で働きながら、一人一人の職員といつでも相談できる関係を築いている。また、その人らしい支援を検討している。	/	/	○	

愛媛県グループホームゆうかの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	皆で取り組み、話し合って自己評価を作成し、共有している。				外部評価の自己評価は、職員全員が参加して検討を行い、作成をすることができている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告をするほか、全ての家族に会議録を送付している。さらに、職員には、評価結果の回覧を行うとともに、目標達成計画に取り組んでいる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	より良いサービス提供の為、評価を現場で活かせるよう、全職員が共有し、実践している。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価後は、課題や目標達成に向け、事業所全体で共有し、取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価の結果と計画は関係者に報告し、取り組んでいる。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みの成果を皆で確認し、課題を再確認して取り組む。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	災害対策マニュアル作成し、訓練を行っている。				事業所では、積極的に地域の災害関係の話し合いに参加をしている。コロナ禍以前は、地域の防災訓練にも参加協力することができていた。また、話し合った内容は職員間で共有するとともに、年2回実施する火災や風水害などを想定した避難訓練などに活かしている。コロナ禍もあり、利用者家族等アンケートの結果から、災害への備えに関する十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、事業所内に訓練の様子の写真を掲載したり、家族に避難訓練への参加協力を呼びかけたり、運営推進会議を活用して話し合うなど、職員間で周知方法を検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	火災や風水害などを想定した訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	備蓄品をわかるところに保管し、定期的な点検し、交換する。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域防災会議に参加し、避難マップ作りや共通の避難場所の確認やリヤカーなどの活用など支援体制を確認している。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の災害訓練に参加し、いざという時の為の訓練を行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	地域の認知症の拠点として、困った時に相談できる身近なグループホームを目指していきたい。開かれた場所としての情報公開ツールとしてホームページ制作に取り組んでいる。				事業所では、近隣住民から認知症高齢者に関する相談を受け、快く対応をしている。コロナ禍以前は、近隣住民を事業所に招待して、おやつやお茶を楽しみながら、交流をするとともに、相談に応じることもできていた。また、小学校の下校時には、交通安全の見守りで、生徒に声をかけることもある。現在、法人・事業所として、ホームページを作成しており、近々アップを予定している。さらに、コロナ禍において、会議や研修に参加できる機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センター、地区社協などと連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	近所には挨拶の時に、認知症相談の声掛けをし、職員には相談に応じられるスキルアップを図っている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	感染症対策観点から事業所開放はしてないが、感染終息時には地域に貢献できる場所になるよう、努力したい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地元の中学生実習の場として、受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	地元の中学生実習の受け入れから始まり、地域イベントやボランティア活動などインフォーマルサポートができるようなホーム作りを目指していきたい。			○	